

- 柏市・東京大学・UR都市機構の三者で、今後の超高齢社会におけるまちづくりについて検討する研究会

● 三者が目指すところ

柏市



- 都市部において進む超高齢化の中でのまちづくりのあり方の検証
- 自治体における高齢者が安心して元気に暮らすことができるまちづくりの具体化

東京大学高齢社会総合研究機構



- 人口の超高齢化に対応する社会，システム，技術の提案
- 超高齢社会のトップランナーである日本における取組の検証と，世界への発信

UR都市機構



- 今後の超高齢化を迎える団地のあり方及びそのまちづくりの検証



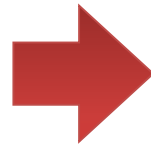
超高齢社会に対応した、高齢者が安心して元気に暮らすことができるまちづくりを三者で検討する研究会を平成21年6月に発足。以降、研究会を重ね市民向けシンポジウムを開催して、平成22年5月に三者協定を締結

平成22（2010）年，豊四季台団地地域をモデルとして，「高齢社会の安心で豊かな暮らし方・まちのあり方」を柏市，東京大学，UR都市機構の三者で議論し，実践するために協定を締結

当初協定の主な連携事項

平成22年5月から5カ年

- 1 在宅医療の推進**
- 2 在宅医療を担う医療・介護職の育成**
- 3 生きがい就労・生きがい支援
- 4 生涯学習
- 5 高齢者等の住宅
- 6 移動手段
- 7 その他，必要と認める事項



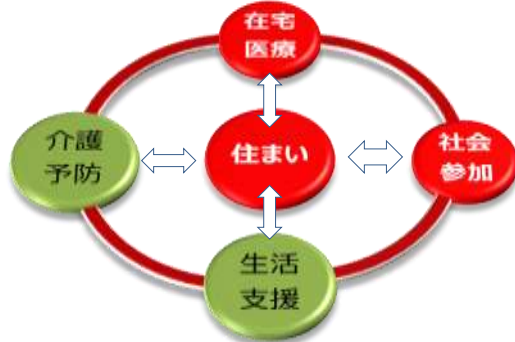
変更後の主な連携事項

平成27年5月から

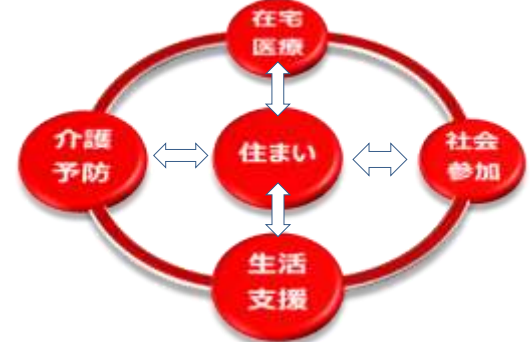
- 1 在宅医療の推進**
- 2 在宅医療を担う医療・介護職の育成**
- 3 生きがい就労・生きがい支援
- 4 生涯学習
- 5 高齢者等の住宅
- 6 移動手段
- 7 生活支援サービス
- 8 健康づくり・介護予防
- 9 その他，必要と認める事項

柏市豊四季台地域高齢社会総合研究会(三者研) これまでの取組

第1フェーズ 2010～2015



第2フェーズ 2015～



2010年度 (H22)	2011 (H23)	2012 (H24)	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019～ (R1～)
--------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	-------------

	【体制・ルール構築】	【普及と定着、質や機能の向上】
在宅医療	在宅医療に対する負担を軽減するバックアップシステムの構築 主治医・副主治医制度の構築, 病院のバックアップ機能を確保(10病院会議にて)	更なる在宅医療推進体制の構築 (主治医・副主治医制の機能強化, 訪問看護STの基盤強化, 病院と在宅との連携強化)
	在宅医療を行う医師等の増加及び多職種連携の推進 顔の見える関係会議, 在宅医療研修の開催等	多職種連携の質, 機能の向上 (本人、家族の意思決定を支えるプログラム開発, 支援者向け意思決定支援ガイドライン作成)
	情報共有システムの構築 ICTを活用し, 患者の情報を医療・介護職で共有し, 多職種連携を推進	在宅医療の見える化・認知度向上 (戦略的な市民啓発)
	市民への啓発 民生委員等地域住民への啓発, 在宅医療情報誌「わがや」の発行	在宅医療・介護連携推進事業のデータ分析と評価

柏地域医療連携センター開業

生活支援	【各日常生活圏域(20地域)】	地域支えあい会議	豊四季台地域ささえ愛実行委員会
------	-----------------	----------	-----------------

介護予防	【調査研究】	2千人の追跡健康調査(柏スタディ) ⇒フレイル予防プログラム開発	健康調査	健康調査	健康調査(2021)
	【フレイル予防の効果的な推進】	フレイルチェック事業	柏フレイル予防プロジェクト2025推進委員会	かしわフレイル予防ポイント制度(2020～)	高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施(2021～)

社会参加	【モデル開発】	生きがい就労創成	【生きがい就労の全市展開】	シルバー人材センターにジョブコーディネーター配置	生涯現役促進地域連携事業 (厚生労働省事業委託)
				セカンドライフプラットフォーム事業 (厚生労働省緊急雇用創出事業)	

住まい	【豊四季台地域(コファン柏豊四季台)】	拠点型サ高住の誘致	【その他の市域全体】	在宅医療・介護サービス拠点の検討・整備
-----	---------------------	-----------	------------	---------------------

柏市豊四季台地域高齢社会総合研究会(三者研)の今後の方向性

- 取組の一部は「柏モデル」として全国に発信されるなど、大きな成果を上げるとともに、その他の事業にも一定の目的。今般、豊四季台団地の建て替えも最終盤に差し掛かったことを機に、来年5月の期間満了をもって三者協定を終了し、事業の棚卸を行うとともに、①東京大学本体(包括連携協定締結済み)及び②UR都市機構と案件に応じて連携する体制への移行を目指して調整中。
- 今後も、在宅医療に関する様々な取り組みを、これまでと同様、柏市医師会をはじめ多職種団体と連携して推進していく。

主な協定項目ごとの成果と今後の方向性

主な項目	主な取組・成果	今後の方向性
在宅医療	<ul style="list-style-type: none"> ○病院と在宅医師間のバックアップ体制の構築 ○多職種連携情報連携システムの構築 ○連携拠点の整備、市民への啓発・相談 ○顔の見える関係づくり、研修の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○柏市の取組が国のモデルとなり、介護保険制度における地域支援事業に位置付けられたことから、今後も、医師会を始めとする多職種の職能団体と連携して、新たな課題等を整理しつつ事業推進していく。
介護予防	<ul style="list-style-type: none"> ○フレイルチェックの実施 ○かしわフレイル予防ポイント制度の創設 ○市民活動を巻き込んだフレイル予防の実施 (柏フレイル予防プロジェクト2025推進委員会) 	<ul style="list-style-type: none"> ○後期高齢健診への項目組込み ○フレイルチェックの継続、効果測定、一体的実施への展開 ○ポイント制度の見直し検討 ○柏フレイル予防プロジェクト2025推進委員会の衣替え
社会参加	<ul style="list-style-type: none"> ○柏市生涯現役促進協議会による就労・社会参加の促進 (厚生労働省の委託事業として実施(～2025年度)) 	<ul style="list-style-type: none"> ○協議会構成員との連携強化 ○委託事業の終了後(2026年度～)を見据えた事業のあり方検討
生活支援	<ul style="list-style-type: none"> ○団地商店街への地域住民の交流拠点の整備 ○生活支援アドバイザーの配置 ○団地内のコミュニティ食堂・スポーツクラブの誘致 ○団地独自の支え合い検討会議の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ○民間家事代行業者(㈱御用聞き)を活用した町内会活動支援 (柏市社会福祉協議会等への引継ぎ検討) ○既存事業による対応への切替え(生活支援体制整備事業等)
住まい	<ul style="list-style-type: none"> ○団地内の拠点型サービス付き高齢者向け住宅の誘致 ○建替後住宅の屋外環境を含むバリアフリー化の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○豊四季台団地以外を含む団地及び周辺地域の活性化等

東京大学との連携を継続
案件に応じて

URとの連携を継続
案件に応じて

※協定項目のうち、移動手段、生涯学習に関する事項の説明は省略した。